

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名：ホームヘルプステーション ながひさ

サービス種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護

地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

地域密着型通所介護 ・ 認知症対応型通所介護

■定期巡回・随時対応型訪問介護看護

日 時： 令和4年10月17日（月曜日）

場 所： 書面開催

出席者：7名

利用者代表	0人	知見者・地域代表	1人
利用者家族	1人	大田市職員	1人
医療関係者	1人	連携訪問看護	1人
事業所職員（職名：管理者・サービス責任者）			2人

欠席者 人

報告事項：

利用者の状況

①入所者、登録者、利用者の人数

月	利用者数
4月	39名
5月	39名
6月	40名
7月	39名
8月	38名
9月	39名

②要介護度

【介護度別】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護1	12名	11名	10名	11名	10名	12名
要介護2	16名	15名	17名	17名	15名	13名
要介護3	5名	6名	6名	6名	7名	8名
要介護4	4名	5名	5名	3名	4名	3名
要介護5	2名	2名	2名	2名	2名	3名
計	39名	39名	40名	39名	38名	39名

③男女比率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男性	13名	11名	12名	12名	12名	14名
女性	26名	28名	28名	27名	26名	25名
計	39名	39名	40名	39名	38名	39名

④年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
60代	1名	1名	1名	1名	1名	1名
70代	2名	4名	3名	2名	2名	2名
80代	11名	10名	12名	13名	13名	12名
90代	24名	23名	24名	23名	22名	24名
100代	1名	1名				
計	39名	34名	40名	39名	38名	39名

⑤地域（住所）別利用

和かち逢う家入居者のみ利用されている。

地域名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
大田町	5名	7名	7名	6名	5名	5名
水上町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
富山町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
川合町	2名	2名	2名	2名	2名	2名
長久町	13名	14名	14名	14名	14名	14名
温泉津町	3名	2名	2名	2名	2名	3名
五十猛町	3名	2名	2名	3名	3名	3名
大森町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
仁摩町	2名	2名	3名	3名	3名	3名
鳥井町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
静間町	1名					
祖式町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
大代町	1名	1名	1名	1名	1名	1名
久手町	2名	1名	1名	1名		
三瓶町	1名	2名	2名	1名	2名	2名
福島県	1名	1名	1名	1名	1名	1名

議 題：

1 活動状況報告

- ・現在、39名定期巡回・随時対応型訪問介護看護を利用されている。
(新規4月：0名 5月：4名 6月：2名 7月：2名 8月：2名 9月：2名)
- ・新規利用は4月～9月では12名。サービス終了者は4月～9月は9名あり。
- ・介護1、介護2が大半を占めている。認知症があり、服薬管理や服薬が自分では難しい、また歩行器や車椅子を使用される方がほとんどで食事誘導等介助が必要である為頻回の訪問が必要。

【提供実績】

月	定期訪問	随時訪問
4月	6349回	82回
5月	6422回	167回
6月	7171回	158回
7月	6739回	274回
8月	6427回	224回
9月	6148回	208回

2 意見、要望等

「事業所から」

- ① 要介護度の高い方が増えたことにより、退院後の状況観察や日常生活に介助を要する部分も多いことから（服薬・食事誘導他）、定期訪問回数は変わらず増加傾向である。
- ② サービス付き高齢者向け住宅は個室であり独居状態となることから夜間の安否確認や起床・就寝介助での訪問、自分で水分補給が難しい方については午前・午後で介助も行っている。現在も1日7回以上の訪問を必要とされる方が過半数以上おられる。
- ③ カンファレンスにて検討を行い、訪問内容の確認や心身の状況に応じて必要と思われる定期訪問の追加・削減、また時間変更も行っている。
- ④ 職員不足の現状は変わらず続いている。

「訪問看護から」

- ・ 以前大田市から指摘があった様に外部訪問の利用促進と新規入居者の訪問の見直し（早めに）が課題になっていくと思います。
- ・ 認知症等で訪問回数が増えているのは分かりますが要介護度が1、2と言うことは認定時にそんなに介護に時間がかかっていないと判断されていると言うことなのでCMや調査員への伝え方も検討する必要があるのではないのでしょうか。
→ ケアマネに変更申請を要請し、ご利用者個々の状態に合った介護度の決定及びそれに合うサービス内容を十分に検討した上で、定期訪問に繋げている。
- ・ 定期巡回の本来の目的でもある自立支援に繋がった事例の件数とその支援方法、要介護度が軽くなった事例があるのか又訪問回数減、時間減で他のサービスを入れる工夫等、今後の具体的な方策があるのでしょうか。

→ご利用者にとって、必要と思われるサービスの提供を行うことはもちろんのこと、入居してからの状況を鑑み、不要なサービスや時間の削減も行っている。しかし「事業所からの内容」の中でも述べた通り、要介護度が高いご利用者の利用が増えており、身体介護中心で他施設に比べ関わり自体少なく、削減にも限界がある。また入居時点から要介護度の高い方が多く、入院・死亡での退去や転倒による自立度の低下等もあり、なかなか要介護度の軽減や自立支援には繋がってはいない。

「知見者・地域代表から」

・コロナ感染の影響により、制限された日常生活が続いています。その中で利用者の生活の質を高めるための工夫について注目しています。

・大田市、長久町を中心に大田市全域からの利用があります。地域住民の生活力向上のための情報発信機能が高まることを期待しています。

「医療関係者から」

医療関係者からのコメントはなし。

「利用者家族から」

・近年はコロナ渦でのお仕事、スタッフの皆様も日々大変であろうと推察致します。この間私たち家族も母に会いに行く回数を遠慮しました。またガラス窓越しの面会では母の耳が遠いので紙に大きく文字を書いてコミュニケーションを取るのがよいと分かった次第です。そんな母も先日なくなり父母共に元気でお世話になった頃のことを思い返し、懐かしく、また色々ご迷惑をお掛けしたことも多々思い出され、家内共々感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

「大田市役所から」

・コロナ感染症の拡大に伴い、利用者の方々が外部サービスを中止せざるを得ない状況があったかと思えます。認知症を有する方が多い中、利用者の方々が不安定になられるなどの悪影響はなかったでしょうか。また介護や看護の提供にあたり工夫された点などありましたら教えて頂けないでしょうか。
→不穏状態になられた方は数名いた。中でも認知症の方は説明しても理解が難しく、その都度対応するしかなかった。居室に籠った状態とならない様、サロンの開催や訪室時に会話の時間を持つなどの対応を行ってはいるが十分とは言えない。

・今後についての欄に、「建物以外での定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用

者確保に繋げていきたい」との記載があり、とてもうれしく思いました。このサービス利用が適切な方は沢山おられると思います。介護保険サービス事業者協議会の居宅介護支援部会の皆さんとも共有し、利用を検討させていただきたいと思います。

- ・新型コロナウイルス感染症が市内でも再び増加傾向にもある中、職員の皆様はこころ安まる時がなく大変ご苦労されておられるかと思えます。今まで感染者がでていないことは、職員の皆様の日々の感染対策のおかげだと思えます。この状況はまだ続くかと思われそうですが、引き続き感染対策とwithコロナに向けて頑張っていきましょう。次回は皆様と笑顔でお会いでき、推進会議が開催できることを願っております。

3 今後について

- ・今後もコロナ感染拡大予防対策を講じつつ、精神面のケアも含めて他職種で連携し、利用者様に安心して過ごして頂けるよう支援を行う。また、自立支援に繋げていけるケアを目指していく事を継続して行っていきたい。
- ・外部ケアマネの定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用が増えているので建物以外での定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用者確保に繋げていきたい。
- ・自己評価について
10月に実施していく。結果を3月の会議にて報告する

4 その他

次回 令和5年3月27日（月）15:30～開催予定